

## 式辞

早田川の桜も既に小さな蕾（つぼみ）がほころび、春の兆しを感じる今日のこの良き日に、本校PTA会長 若山 桂子 様、同窓会長 篠田典子 様 をはじめご来賓の皆様方、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、令和五年度 岐阜県立岐阜北高等学校 卒業証書授与式を挙行できましたことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました 三百五十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三年前、皆さんをこの岐阜北高校に迎えた時は、まだ先が見えない新型コロナ禍の中でした。皆さんは中学生の時に部活動の大会や、多くの学校行事が経験できなかったと聞いていました。高校入学後も感染拡大と緊急事態宣言の発令が繰り返される中で、皆さんに対して、どうすれば有意義な教育が提供するのか、それが我々の課題でした。国や県が示す感染対策を守りながら、何をすべきで、何をすべきでないのか、時に延期や中止の判断をし、時に柔軟に形を変えながら、前に進むことの大切さを、我々は皆さんと一緒に学んだと思います。

一年次は、まん延防止措置の合間をぬって、延期していた八十周年記念事業の劇団四季「ライオンキング」の観劇を実施できましたが、北高祭は長期間の休校措置のため、文化祭は別のイベントに変更、体育祭は応援団の演舞のみにせざるを得ませんでした。

二年次に体育祭を復活しましたが、感染防止のため身体接触の少ない種目のみでの実施、修学旅行は翌年の二月まで延期し、県教委の規制の解禁を待って、北高伝統の沖縄研修が再開できました。しかし、与論島の民宿は既に廃業、新型コロナもまだ2類であったため、法律に従い、現地で陽性者が出たら、その濃厚接触者も含めて、沖縄に置いて帰るという条件でした。そのような研修に、今ここにいる三年生全員が参

加し、全ての保護者がそれを承諾し、一名の陽性者も出さずに全行程を終了して帰還できたことに感謝しかありません。

三年次、いよいよコロナ禍が明け、球技大会で叱ったこともありましたが、北高祭の運営では、生徒の皆さんが中心となり、自分たちでルールを考え、それを職員会議に提案して了承を得て、全校生徒に生徒が説明し、応援団や各種委員会、その他団体が協力して素晴らしい文化祭、そして体育祭を創り上げました。北高生が一つになった時の爆発的なエネルギーの大きさを目の当たりにして、自分は感激して涙が出ました。そして翌日には熱が出て、咳も出て、大勢の生徒と職員が新型コロナ陽性となり休校となりました。5類になったからと言って感染力が落ちたわけではなく、これまで2類であった三年間、一度もクラスターが発生しなかった岐阜北高校の感染症対策の優秀さが証明されたとともに、教訓を与えていただきました。

本校のスクール・ポリシー「荒野をひらく探究人」は、未知の世界に挑戦していく皆さん、そして我々の背中をも押してくれる言葉です。挑戦には必ずリスクがあり、リスクを恐れて挑戦しなければ、何かを得ることも、成長もありません。

既にアフターコロナの世界が動き始めています。もとの世界に戻ることなく、貴重な経験を通して獲得した知識や技能、そして精神力で、自身の未来を切り拓き、より良い社会の創造に寄与して欲しいと願っています。

ロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ問題、北朝鮮や台湾有事の懸念など、現在、解決できていない課題、そして大規模災害や新たな感染症など、我々の平和と発展を脅かす新たな課題も次々と現れると思います。しかし、それら一つ一つに、「若き命」と「高き志操」、そして「英知」をもって挑み、より良い解決策を導き、前に向かって進んで欲しいと願っています。

最後に、様々な不安の中で、学校を信頼して三年間、お子さんを預けていただいた

保護者の皆様方には感謝の言葉しかありません。

子どもたちは、様々な失敗や成功を繰り返しながら、学び成長します。その姿を見守り、嬉しい時は共に喜び、苦しい時には励まし、時に一緒に涙を流し、お子様の成長を支えていただいたご家族の方々の深い愛情なくして、今日の日はなかったと思います。三年間、毎日、お子さんより早く起きて、弁当を用意して送り出す。その一つだけをとっても、親から受けた愛をどのような形で返すことができるでしょうか。

卒業生の皆さんは、とても明るく元気で、前向き、誠実で心優しく、そして皆が力を合わせて成し遂げる大きな力を持った、人間的にも優秀で魅力的な人たちでした。しかし、それぞれ一人一人には、きっと

誰にも見せない涙が、人知れず流した涙があったと思います。決して平らな道ではなかった。でも、確かに一步一步んできた道です。いくつもの日々を超えて、たどり着いた今がある。だから、もう迷わずに進めばいい。…昨日歌った曲の歌詞ですが、我々教員はその思いで皆さんを送り出します。

まだ、大学受験に挑戦中の、夢の途中の皆さんも多くいます。最後まで諦めずに挑戦し、その結果、最終的に選んだ道が、皆さんにとって最善の道です。保護者の皆さんは、お子さんが自ら選んだ道を尊重し、新たな世界に向かって進むお子さんの背中を押してあげて欲しいと思います。

卒業生の皆さんが、これから羽ばたいていく、新しい世界でのご活躍とご多幸を、今一度、心より祈念申し上げて式辞とさせていただきます。

令和六年三月一日

岐阜県立岐阜北高等学校

校長 鈴木 健